

アイデア凝らし 技術アピール

岡崎ものづくりフェア 製造企業など集結

岡崎市内で27、28日に開かれた三河地方最大級のビジネス交流会「ものづくり岡崎フェア2025」。計93の製造企業や研究機関などが集い、新製品やこだわりの技術をアピールする熱気であふれた会場で、三河地方のものづくりの最前線を追った。

(谷悠己)

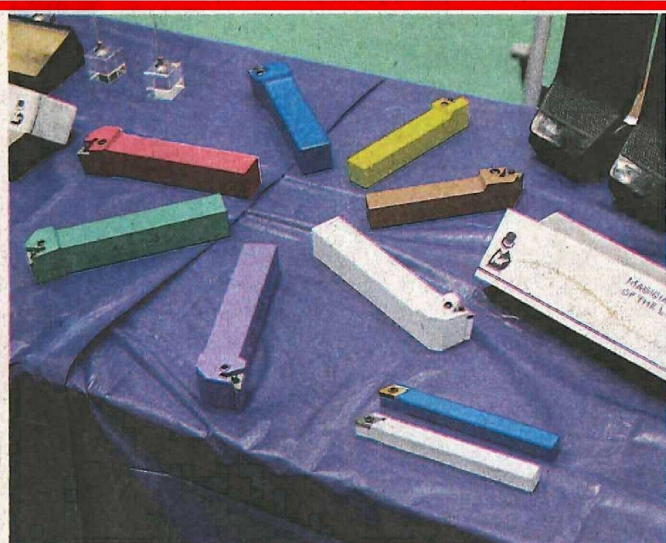
高等技術専門校訓練生も出品



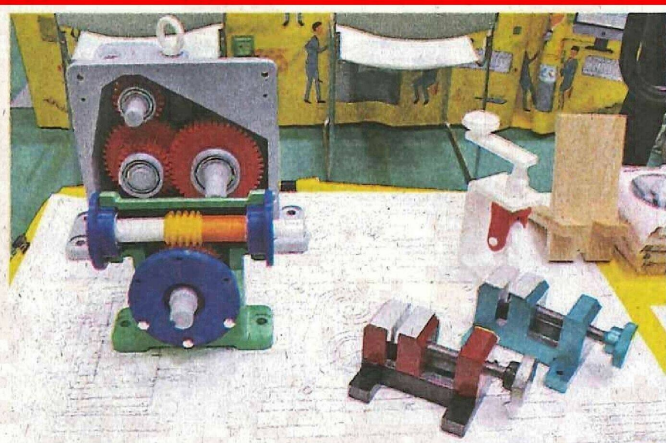
東海熱処理研究センターで試作した部品を手に商談する電気興業の担当者(左)ら。いずれも岡崎市の岡崎中央総合公園総合体育館で

「旋盤のマジシャン」。こんなキャッチフレーズと魔術師のロゴでPRしていたのは、バイトホルダと呼ばれる旋盤で金属を削る刃先の部品を得意とする豊橋市の切削工具メーカー「あおやま」。従来は黒一択だったバイトホルダを業界で初めて赤、青、緑、紫、白、黄、茶で多色展開した。

今年2月の発表以来、識別がしやすく取り換えミスが起きにくいことから旋盤を使う事業所からの問い合わせが相次いでいるという。青山雄治社長は「ずっと単色で作っていたのでカラフルに面白くしようと始めたが、反響に驚いている」と手応えを感じていた。



あおやまが出展した色鮮やかなバイトホルダ



愛知県立三河高等技術専門校の訓練生の製作品

自動車産業の集積地である利点を生かし、県外から三河地方に進出する動きも。熱処理加工設備メーカー「電気興業」(東京)は昨年、自動車部品の試作から装置の保守まで一貫対応する東海熱処理研究センターを岡崎市上三ツ木町に開設した。担当者は「地域の自動車メーカーや部品会社の担当と頻繁に会えるので受注の掘り起こしにつながっている」と話し、センターで試作した部品を手に来場者と商談を重ねていた。

機械工具販売の「Kamogawa」(京都市)は2019年に開設した愛知サテライト工場(刈谷市泉田町)で製造した切削工具を出展。エンジン回りを中心とする三河地方の自動車部品メーカー各社の需要に合わせ刃先の形状のミリ単位の修正に応じているといい、担当者は「早ければ翌日納入できる体制を強みに、競合他社との差別化を図っている」と話した。

並み居る企業に混じり、県立三河高等技術専門校(岡崎市美合町)も訓練生らが製作した万力や3Dプリンター作品を展示。市川哲郎専門員は「今年から最新のロボットシステムを学べる専門科も新設された。三河地方のものづくりを下支えする人材を育成していきたい」と意気込んでいる。



愛知サテライト工場で作った工具をPRするKamogawaの担当者